各　位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2024年2月分)

ご協力ありがとうございました。2024年2月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 142社　　回答 131　　回答率 92.3%

	前　月　比						前　年　同　月　比					
調査項目	10%以上増加・上昇・好況	やや増加・上昇・好況	横這い・平常	やや減少・下降・不況	10%以上減少・下降・不況	計	10%以上増加・上昇・好況	やや増加・上昇・好況	横這い・平常	やや減少・下降・不況	10%以上減少・下降・不況	計
売上数量	21社 15.9% (6.6)	27社 20.5% (8.0)	49社 37.1% (38.7)	26社 19.7% (25.5)	9社 6.8% (21.2)	132社	10社 7.7% (15.4)	27社 20.8% (8.8)	39社 30.0% (33.8)	30社 23.1% (23.5)	24社 18.5% (18.4)	130社
売上高	21社 16.0% (6.6)	29社 22.1% (7.4)	47社 35.9% (35.3)	23社 17.6% (30.1)	11社 8.4% (20.6)	131社	11社 8.5% (13.2)	23社 17.7% (7.4)	39社 30.0% (36.8)	33社 25.4% (26.5)	24社 18.5% (16.2)	130社
在庫数量	3社 2.4% (0.8)	22社 17.5% (14.7)	74社 58.7% (62.0)	22社 17.5% (18.6)	5社 4.0% (3.9)	126社	5社 4.0% (3.9)	20社 16.1% (14.0)	57社 46.0% (51.2)	24社 19.4% (18.6)	18社 14.5% (12.4)	124社
販売単価	1社 0.8% (1.5)	4社 3.1% (5.1)	113社 86.9% (83.8)	12社 9.2% (9.6)	0社 0.0% (0.0)	130社	3社 2.3% (0.7)	25社 19.5% (19.4)	65社 50.8% (48.5)	31社 24.2% (27.6)	4社 3.1% (3.7)	128社
収益状況(粗利)	10社 7.6% (3.0)	21社 16.0% (8.1)	70社 53.4% (51.1)	22社 16.8% (28.9)	8社 6.1% (8.9)	131社	6社 4.7% (4.5)	17社 13.2% (10.4)	52社 40.3% (38.8)	28社 21.7% (32.1)	26社 20.2% (14.2)	129社
稼働率(生産・加工設備)	5社 4.4% (2.5)	20社 17.7% (6.8)	62社 54.9% (50.8)	19社 16.8% (28.8)	7社 6.2% (11.0)	113社	4社 3.6% (5.0)	11社 9.8% (12.4)	60社 53.6% (47.9)	22社 19.6% (24.8)	15社 13.4% (9.9)	112社
入出庫のトラック台数	3社 2.3% (2.3)	24社 18.8% (6.9)	78社 60.9% (54.2)	16社 12.5% (28.2)	7社 5.5% (8.4)	128社	4社 3.1% (3.8)	11社 8.7% (12.1)	73社 57.5% (49.2)	23社 18.1% (25.0)	16社 12.6% (9.8)	127社
	現在の景況感						３ヶ月後の景況予測					
	0社 0.0% (0.0)	6社 4.7% (7.8)	62社 48.4% (45.0)	37社 28.9% (33.3)	23社 18.0% (14.0)	128社	1社 0.8% (0.0)	18社 14.2% (10.2)	90社 70.9% (69.3)	16社 12.6% (18.1)	2社 1.6% (2.4)	127社
特記事項												

注　①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②(　)内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局　TEL：047-350-5311　FAX：047-350-5316

景況実感調査(2024 年 2 月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

① 2 月の加工量は前年同月並みを確保。労働人口が今後減少する見込みであることにより、国内需要の増加は見込めないと考えている。市況に左右されない付加価値を付けた商売を増やしていかなければならない。

② 悪いなりにも数字は作れた。しかしながら、不確定要素(自動車、トラック、建築等)もあるので油断できない。次の課題は値上げである。

③ 建築分野は依然として低迷。取引先で 1 件、3 月末で廃業するとの FAX が先日入った。原板の値上げ、諸経費の値上げが本格化する中、倒産する取引先が増えてくるように思える。

④ 販売は量も単価も維持できたが、加工量は減となった。メーカーリリースもあり、値上げも唱えまわっているが、仮需の「か」もないといったところである。

中板

① 実需の低迷は続いていて、荷動きも悪い。その中で高炉メーカーの第一段の値上げがあり、流通は厳しい中での価格転嫁を行わなければならない。ただし、メーカーの値上げは第 2 段も控えている。先々、不安しかない。

厚板

① 建設機械は減産の機種、増産の機種もあり、なかなか先が見通せない状況。店売り関連は、人手不足により客先の動きが悪化したことや、鋼材の値上げがあり、売上がなかなか伸びない状況。

② ＜全体感＞厚板を扱う全ての産業分野とも、前月と状況は変わらず盛り上がりが無く低調に推移している。高炉メーカーは紐付き、店売りともに値上げを実施したが、市中の需要は低迷しており、市況は膠着。＜分野別＞建機分野では、24 年度も 23 年度に続き需要が落ち込むトレンド。メーカー各社の 24 年度の生産台数は 23 年度比減少の計画。店売り分野では、建築や土木案件は引き続き低調な状況が継続。当面、需要の回復は望めない。

③ 保留物件の解除が多くなってきたが、同時に物件納期の延長もみられる。その間に新規物件も徐々にではあるが入って来ているので、暫くは同じ状態が続くと思われる。

④ 情況に大きな変化は見られない。

一般形鋼・H形鋼

① 12 月以降の荷動きの悪化も 3 カ月継続し、原因は円安ではなく中国経済の低迷の色濃しとなってきたのではないか。37 年振りの兜町の賑わいも浦安市況には反映されず。問題は 4 月以降のメーカー値上げの転稼に尽きる。
② 値上げの波が来ていて、客先に浸透を促している。現場はあるが人手不足、長時間労働の問題で進みが悪い。倒産情報も多くなっている。
③ メーカー値上げと各流通のコストアップを背景に価格転嫁は進むと予想している。
④ メーカーは値上げ実行。値上げ玉は新年度に本格入荷。仕入れ上昇分の転嫁は勿論だが、メーカー値上げの中身の大半は輸送費・エネルギーコスト・人件費であり、我々流通にとっても同様のコスト増は不可避。需給環境云々の問題ではなく、社会的コスト増として仕入れ価格プラスαで転稼が必要。

異形棒鋼

① 2 月の動きは 1 月と同じ。前年よりは低位。3 月は少し良くなるのではないか。
② 2 月は売上がやや回復したが、収益確保は依然として厳しい。鉄筋加工会社では、仕事のズレ、延期等で 6 割稼働の会社もあり、春先は仕事の谷間が長くなる状況と見られる。

平鋼

① メーカー5 円の値上げ分が 3 月以降どの程度転嫁できるかが、今後の収益のカギ。
② 2 月に入り、メーカーの値上げ発表の影響で多少、仮需は出たが思ったほど数量は増えていない。社内加工も 2 月、3 月と変わらず山積みは低い。1 月よりは多少、仕事が出てきた感じはするが量も細かく、まとまった物件が無い状態。2 月のメーカー値上げによる価格転嫁の話も進めつつ、実行時期の見極めを模索していく。

軽量形鋼

① 稼働は前期並み。3 月末まで横ばいの見込み。
② 2 月 5 日の雪の影響による物流の混乱から、商いが激減してしまった。その後に挽回する動きも無く、今も低調な状況が続いている。

鋼管

① 首都圏の大型物件は、現場の遅れ傾向が続いている。市中流通(大手問屋)も在庫が多く、引き取りが進まない。4 月から鋼管全品種のメーカー値上げ表明が出そろう。仮需はまだ無いが、3 月に期待したい。
② 前月と状況はほぼ変わらず、総じて低調である。メーカー値上げの発表あるも、ムードは変わらず。

構造用鋼

① 需要は前月と変わりなく、自動車関連は回復しているが、一方で建機や産機などは低調。工作機械も調整が続いている。店売りの荷動きは低調で、当面は現状の推移か。在庫は調整が進んで、若干多め。価格は横這いで推移している。今後は各メーカーが値上げを打ち出しており、厳しい需要環境下での価格転嫁が必至の状況。

磨棒鋼

① 自動車向け紐付き品は、一部を除き調整局面が続く。建機向けは本格的に需要減を迎えており、先行きも更に減少していく懸念が出てきている。店売り品は先月に比べれば回復傾向も依然として低調が続いている。鉄鋼メーカーが￥20／Kg の値上げを表明。4 月以降の加工賃、諸コスト、労務費上昇分を加味して価格転嫁していく。

その他

＜異形バーインコイル・ナマシ鉄線＞

① 大手メーカーから 4 月からの値上げ要請が続いているが、現状の荷動きの悪い状況下では価格転嫁が厳しい。一部商材では輸入材と国内材の値差が広がってしまう。国内材(メーカー)も頑張りどころか。

＜電線・ケーブル＞

① 電線、ケーブル不足が継続している。

＜金属加工製品＞

① 2023 年 9 月より中小建築物件の中止、延期が顕在化し、売上が右肩下がり。需要低迷の中、増加コストをどう製品単価に反映させるか。

＜鉄スクラップ＞

① 国内外の情勢を聞いている限り、スクラップの市況、荷動きはともにまだ回復しそうにない。各産業が動き出せば自然とスクラップの荷動きは活発になり、相場も動いていく。今は、何より荷動きの回復を望んでいる。

＜金属表面処理＞

① 計画通りの加工量となった。足下の引合いも順調。